

3D空間記録による過去と現在の融合システム

～ Spatial Information Platform Project (SIP) ～

一般社団法人スポーツタイムマシン 代表理事 廣田 祐也

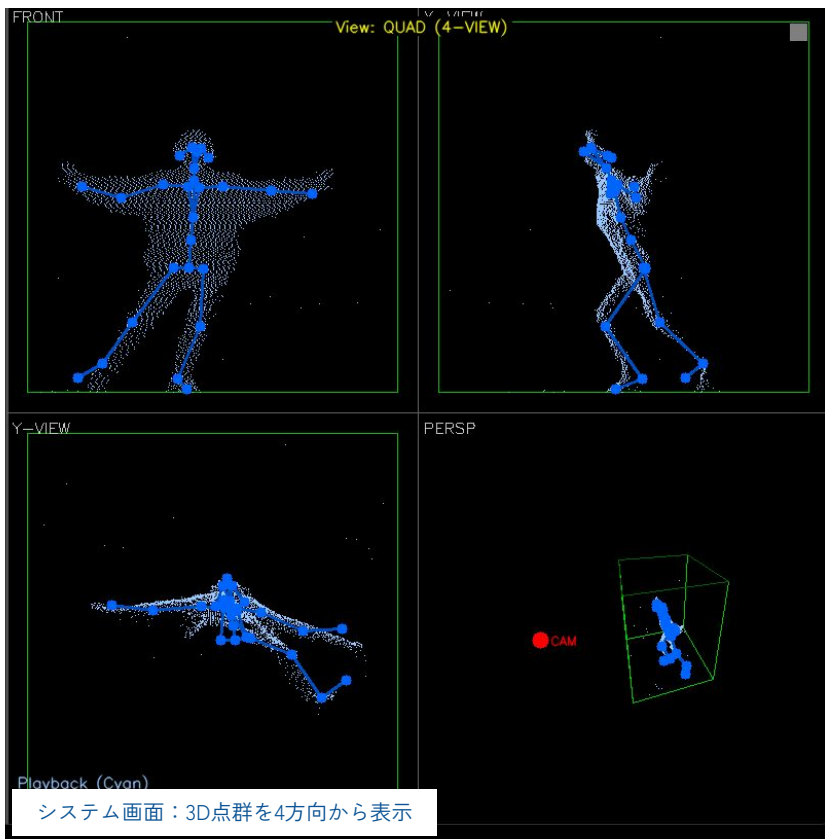
hirotayuya2002@gmail.com



活用例：過去の自分とダンス共演



使用機材：深度カメラ (Orbec Femto Mega)



システム画面：3D点群を4方向から表示

作品概要：深度カメラによる録画再生と3Dレイヤー表示

深度カメラで実空間を立体的な「点の群れ」として捉え、録画再生できるシステムのプロトタイプを開発し、多分野での活用を探るプロジェクトです。

本システムの特徴は、過去の録画と現在のリアルタイム映像を同時に表示できることです。過去と現在、自分と他者...時間や人物の異なる3D映像を重ね合わせて、比較や観察、共演するといった、さまざまな用途での利用をめざします。

プロジェクトについて

本システムは、「過去の記録とかけっこできる」メディアアート作品の「スポーツタイムマシン」を元に、最新機材の導入とAI支援による開発手法を取り入れ、より汎用性が高いシステムの再構築をめざすものです。本プロジェクトでは、特に医療福祉やダンスでの応用を探求しています。



犬飼博士+安藤僚子
『スポーツタイムマシン』(2013)

システム仕様

- プラットフォーム：NVIDIA GPU搭載WindowsPC
- 使用機材：Orbec Femto Mega (深度カメラ)
- 開発言語：Python
(Orbec/Microsoft Azure SDKを使用)
- 設置条件：床2×4m、天高2m (2m³の空間を記録)

